

○夏休みが終わり 2 学期が始まりました

夏休みはゆっくり過ごせたでしょうか。家族で絆を深めましたか。昨年に引き続き、思い切り楽しめない、つまらない夏休みになってしまったでしょうか。また不安の中での始業となってしまいました。2 学期もよろしく願います。少しでも楽しい日々を、一緒に作っていきましょうね。

○言葉以外で伝えること

コロナ禍で日本と世界が大きく変わっています。人と会うとき、話すとき、マスクをするのが大事なことになりました。昨年度出会って昨年度だけでお別れしちゃった人は、お顔が半分しか分からないまま。再会出来たときちゃんと気づくかなと思ってしまいます。

人類がマスクをつけ始めたとき、日本人は欧米人と比べてスムーズに取り入れたようです。花粉対策、インフルエンザ予防、前から日本人はマスクをよくしていましたね。

他人の感情を知りたいとき日本人は相手の目の形をアメリカ人は相手の口の形を重視する

〔結城雅樹. 北海道大学. 2007 年発表の研究より〕

サングラスはカッコいいけど、怖いイメージもあって日本ではアメリカほど広まっていません。見る部位を相手に覆われてしまうとコミュニケーションに不安が生まれます。感情が読み取れない気持ち悪さを感じます。日本語は母音子音の種類が少ない一方、英語は子音が多くて口を様々なパターンに動かすことも、会話の際の相手の顔の注視点に関わります。日本は「目は口ほどに物を言う」という文化で目を隠さないのがコミュニケーションの要ですね。

でもこれは生まれつきではありません。



東アジア人と欧米人の赤ちゃんで注目部位を調べたところ、生後 7 か月でも東アジア人は目元、欧米人は口元だった。欧米のお母さんが、「はい、ベイベー」など大きさに口を開けて話しかけるのに比べ、日本のお母さんはニコニコとほほ笑む。赤ちゃんはそれぞれのお母さんの表情の特徴が表れる場所をよく見ているのだ。

〔山口真美. 中央大教授〕

○もっと伝えあいましょう

赤ちゃんは人の働きかけを通して大切な人を覚え、信頼感を獲得していきます。目で物を言っただけでも、顔を半分隠した大人達。育ち盛りの子供たちは他人を覚えづらかったり、豊かな表情を発しているメディアの中の人の方に親しみを感じてしまったりするかもしれません。大人はマスク越しであることを意識して、目の表情を豊かに、身振り手振りもうなずきもマスクなしの時より大きさに表現して、意識的に感情を声に出し伝えていく努力をするべきかもしれません。

みんなで支えあうことがまだまだ大切。

辛いこと、もやもやすること、もっともっと伝えあい声をかけていきましょう。